



「東京の光害から逃げ出して真っ暗な空の下で星を見てみたい。東京に住む天文ファンならだれしもがこう思っているはず。それを別荘風長期滞在型観測所をつくって実現したグループがある。慧星観測者として知られている田中政明さんを中心とする、20人のメンバーたちだ。観測所名はいわき天体観測所。場所は常磐自動車道を勿来で降り、国道289号線を西へ30分ほど行った山中だ。1985年から5年をかけて88年11月6日、開所式を迎えた。

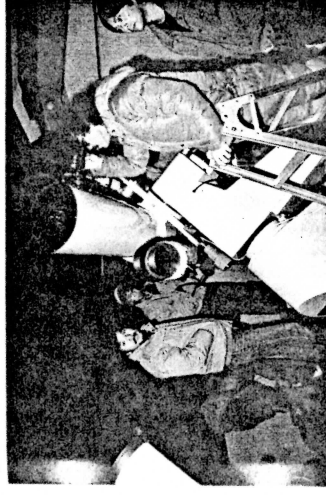
観測所は長期滞在型をうたっているのでも、一般住宅と同じような設備に加え、2本のピラーとスライディンググループ式の観測室があり、機材はミカゲ350赤道儀に30cmニュートン、16cmシミュット、それにJIP架台と大がかりだ。施行費用



望遠鏡はミカゲ製150赤道儀に30cm-F5.7ニュートンと16cmシミュットが、タカハシJIP架台にやはりシミュットが同架されている。



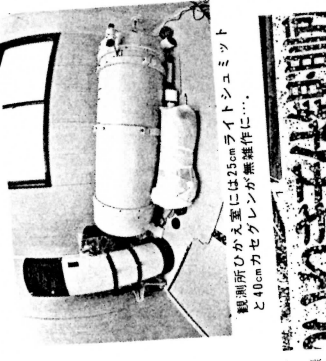
前夜祭では国立天文台の香西先生による小惑星と慧星についてのお話もあった。



前夜祭の後、降るような星空の下で心ゆくまで星雲・星団を観望。本当にすばらしいロケーションだ。



こちらは本誌編集部で集まった開所式参加申込みで当選した(左から)吉川典重、伊賀隆志、田崎亨の3人。



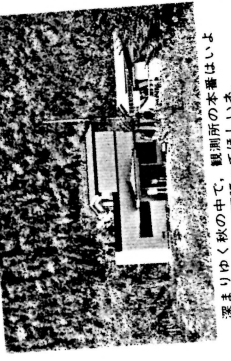
観測所ひかえ室には25cmライトシミュットと40cmカセレンが無難作に...



和歌山からかけつけた加茂昭さんも...私も車の免許を取ることに決めました。



山口正博先生(左)と須原元輔氏(酒原光孝社長)もかけつけた。



深まりゆく秋の中で、観測所の本番はいよいよもかかってほしい。

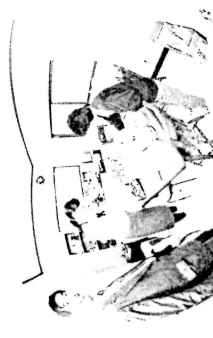
★お分けします
いわき天体観測所のすべて



開所式を記念してつくった「観測所」のすべてを、B5判40頁を合わせて1冊に500円を東京T-57007に送ると、田中政明へ。



開所式準備中の女性陣。台所も長期滞在型とあって民家なみにしっかりしている。



やつと開所式にこきつけて一安心の田中政明さん(左)と市村義美さん。



開所式に集まった観測所のメンバー。皆、観測所にかける夢とバイタリティーがすごい。